

(学年) 第2学年, (教科・科目) 家庭・家庭基礎

協働学習

(単元) 消費者の権利と責任について考える

(本時のねらい)

成年年齢引き下げにともない、家庭科においても消費者教育の重要性を再確認している。生徒は日常生活の中で、特に意識することなく契約を行っているという場面がたくさんある。そして、契約は生涯続いていくもので、ライフステージが上がるほど、複雑化・高額化していき、その重要性がさらに増していく。生徒が自立した消費者として自らの消費行動について考え、行動することが消費者市民社会の実現への第一歩となることを理解させたい。そのためには、消費者に保障されている権利や責任を果たしていくことが大切であるが、既成の権利と責任だけではなく、自分自身の消費生活とリンクさせた「○高生版 消費者の権利と責任」を導き出し、日常生活の中で活用していける力を養いたい。

(ICT活用方法)

前時の振り返りや本時のグループワーク（「○高生版 消費者の権利と責任」を話し合う）の手順や方法を説明するために、プレゼン資料をスクリーンに映して、提示した。従来は板書が中心であったが、プレゼンテーションで進めることで、活動のタイムコントロールもしやすくなると感じた。また従来ある消費者の権利と責任やその変遷を画面を通して提示することもでき、変遷の背景にどんな意図があるのかについても、全員で確認することができた。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法	備考
導入 5分	○本時の目標と活動内容を知る。	○本時の目標と活動を説明する。		
展開 40分	○クイズの解答との根拠となった情報について発表する。 ○クイズの解答を知る。 ○消費者庁作成教材『社会への扉』で各クイズの解説を見る。 ○担当クイズにどんな消費者	○クイズの解答と根拠を発表させる。 ○プレゼンテーションでクイズの解答を伝える。 ○解答が分かれたり、誤答だったクイズについて解説する。 ○付箋1枚に意見を1つ書くよう指示す	○前時に取り組んだクイズの問題をスクリーンに映し出す。 ○クイズの解答をスクリーンに映し出す。 ○誤答やグループで解答が分かれたクイズのみピックアップして、映し出す。 ○活動の役割分担や流れ、進め方の具体例	

	<p>の権利や責任をともなっているかを付箋に書く。</p> <p>○付箋をグループで出し合い、発表資料を作成する。</p> <p>○グループの代表が発表する。</p>	<p>る。</p> <p>○事業者の権利や義務も考えながら進めるよう伝える。</p> <p>○オリジナルの権利と責任を創り出すよう促す。</p> <p>○2～3グループ程度発表させる。</p>	<p>をスクリーンに映し出しながら、生徒に説明する。</p> <p>○従来ある消費者の権利と責任の変遷をスクリーンで示し、消費者行政の流れが視覚的にわかるようにする。</p>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>○本時のまとめを聞く。</p> <p>○本時の振り返りを行う。</p> <p>○次時の予告を聞く。</p>	<p>○消費者の行動が消費者市民社会実現につながることを伝える。</p>	<p>○消費者市民社会の実現に向けて具体的にどう行動すればよいかをシュミレーションした資料を提示し、理解を深める。</p>	

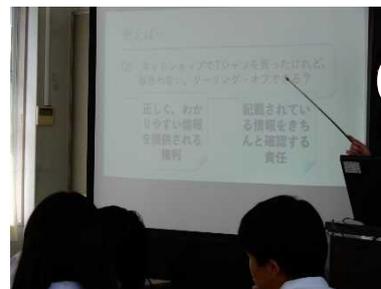
(授業の様子)



前時の振り返りと本時の活動の提示



クイズの解答を確認



具体的な事例を提示

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

スクリーンでは、パワーポイントで作成したプレゼン資料を投影し、板書の時間を短縮できた。クイズの解答等をアニメーションを使って出していくと、生徒は集中してスクリーンを見つめ、興味を持って意欲的に取り組んでいた。授業の流れや活動の内容を視覚的に示すことで、本時の活動にスムーズに入ることができたと思う。今回の授業では生徒がグループワークで作成した成果物を黒板に貼って発表した。この発表を電子黒板や電子ペンを使うと、グループワークの流れや発表者の強調したいところが伝わりやすく、また聞く側の生徒にとっても理解がさらに深まったのではないかと考える。